NPO法人　北海道みなとの文化振興機構

もくじ

設立10周年を迎えて…… 1
設立10周年へ寄せて…… 2
10年間の活動報告 …… 3
特別寄稿 …… 4
平成25年度活動報告
「支部長等会議」開催 ……14
「みなとサポート事業」各支部の支援活動 ……15
北海道開発局防災エキスパート（港湾・空港・漁港）
研修会の開催について ……17
助成事業の実施概要 ……18
着ぐるみ（みなとのマスコット「ぽーとん」くん、
「べいくりん」ちゃん）貸し付け事業の紹介 ……19
記念グッズの配布 ……20
「第3回みなとオアシスSea級グルメ全国大会」
が苫小牧港で開催されました!! ……20
会員動向 ……22

設立10周年を迎えて

NPO法人　北海道みなとの文化振興機構
会長　藤　田　博　章

特定非営利活動法人北海道みなとの文化振興機構は、本年で設立10周年を迎えました。

おかげさまをもちまして現在、正会員177名、64団体、賛助会員11団体を数えています。会員各位には改めてこれまでの取り組みに感謝申し上げる次第です。

この10年間に当NPOがこの様に活動を継続できましたことは、ひとえに、国土交通省北海道開発局をはじめ、港湾管理者、市町村、関係諸団体や企業等の関係者の皆様方の温かいご指導、ご支援のたまものであり心よりお礼申し上げます。

四方を海に囲まれる北海道には、現在、港湾35港、漁港282港があり、それぞれ地域の産業拠点、生活拠点、交流拠点として大きな役割を果たしています。各港は自然環境が異なることはもとより、歴史面、文化面において個性的でありそれぞれ特徴ある魅力を有しています。

当NPOは、このようなみなとの魅力を最大限に生かし、みなとへの愛着を深め、みなととまちの連携によるみなとまちづくりを目指し以下の事業に取り組んできました。港の理解と利用促進に係る広報事業として「みなと見学会」、「みなとパネル展」、「みなとサポーター」などの実施、みなとまちづくり支援事業としては「みなと座談会」の開催、港湾・空港・漁港の防災業務および災害復旧支援事業として「防災エキスパート」研修会、伝達訓練などを会員各位のボランティアによりを行ってきました。加えて、現在、多様な主体による地域づくりへの取り組みが進められていますが、みなとと連携したまちづくり、地域の人々との協働によるみなとまちづくりのお手伝いを、助成事業により行って参りました。微力ではありますが、各みなとの振興に些かでもお役に立つことができましたことは大きな喜びです。

我が国の社会が成熟化を迎える中でNPO活動に対する期待、役割は今後ますます大きくなっていくものと思われます。設立10周年を節目に、NPOの存在意義を再認識し、港の文化振興を目指し、皆様のご期待に答えていく所存であります。次の10周年に向けまして、当NPOへの一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

設立10周年へ寄せて

北海道開発局港湾空港部長
川　合　紀　章

NPO法人北海道みなとの文化振興機構が設立10周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。また、日頃から、北海道の港湾行政の推進に特段のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

貴機構が平成15年に設立されて以来、港への理解と利用促進に係わる広報活動などを鋭意展開されるとともに、海や港に関する文化、芸術、環境、国際交流などの様々な活動を行う各種団体との連携や支援を通じて、北海道におけるみなとまちづくりの推進に大きな役割を果していることに対し深く敬意を表します。

近年は社会資本整備や地域づくりにおいて、住民、NPO、企業、地方公共団体、国等の多様な主体が広く連携・協働し、一体となった取組を展開していくことが一層重要となってきております。

そうした中、貴機構では、北海道各地のみなとまちづくり団体との連携強化に努められており、北海道みなとまちづくり女性ネットワークとの連携により毎年開催されています「みなと座談会」は、女性ならではの視点で活発な議論が行われ、参加団体の意識向上はもとより、私共も貴重な意見やアイデアをいただいております。また、みなとまちづくり団体が各地で取り組まれているまちおこし活動への「助成事業」は、各団体の継続的な活動に大きな役割を果たしており、北海道のみなとまちづくりに対する強力な支えとなっています。

また、貴機構には私共が北海道各地で実施している現場見学会等の広報活動に際し、「みなとサポーター」派遣による支援をいただいています。さらに、貴機構が設立初年度より毎年実施されている「みなとパネル展」等の取組は、みなとの役割や暮らしとの関わりについて、広く一般の方々の理解を深めることに貢献しており、感謝申し上げる次第です。

平成18年に、貴機構と北海道開発局が締結した「防災エキスパート」支援協定は、東日本大震災後、防災・減災への要請が高まる中で、一層重要性を増しております。現在、29名の方にエキスパートの登録をいただき、毎年の研修を通じて有事における迅速かつ的確な支援対応の確立に取り組まれており、いざという時の心強いパートナーとして期待しています。

北海道は、全国を上回る速さで人口減少、少子高齢化が進展しており、地域の活力の維持・活性化がとりわけ重要な課題となっております。また、昨今は気候変動による豪雨や竜巻などの自然災害が多発しており、もとより大規模地震の切迫性が指摘されるなど安全・安心の確保が急務となっております。また、これら課題への対応を着実に進めていく上で国民や地域の理解と参画が不可欠であり、社会資本が生活に果たす役割や整備の必要性について、分かりやすい情報発信や広報活動に努めていく必要があります。

貴機構におかれましては、なお一層の広報活動やみなとまちづくり団体との連携強化にご尽力されますとともに、災害対応技術などの研鑽に努められることにより、北海道の地域の発展にさらに貢献されることを期待しております。

次なる10年へ向けて、貴機構並びに会員の皆様が益々発展されることを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

10年間の活動報告

NPO法人　北海道みなとの文化振興機構
理事長　中　村　信　之

NPO北海道みなとの文化振興機構は本年10周年を迎えました。会員各位のこれまでのご協力に感謝しお礼申し上げます。

当NPOの広報誌として活動状況関連情報などをお届けする「伝言板」も本号で20号となります。10年の節目に当たり、これまでの活動状況、取り組みをとりまとめご報告し、ふり返ってみたいと思います。

当NPOの事業は、主要なものとして、みなとの理解と利用促進に係る広報事業、みなとまちづくり支援事業、防災業務および災害復旧支援事業、みなとの文化振興に係る助成事業があります。

広報事業では平成15年の設立初年度からの事業として「みなとパネル展」があります。みなとの活動をわかりやすくパネルにまとめ、地域の方々の理解を得るものであり「ザ・シンポジウムみなと」の協賛事業として会場ロビーなどを使い毎年実施しています。さらに2年目の平成16年から3年間は「親子でいくみなと学習見学会」を釧路港、苫小牧港、函館港で実施しました。毎回50名近くの参加者があり、船を間近に見ることができた、みなとまちの歴史が勉強できたなどの感想をいただき好評でした。本見学会は平成20年度に「みなとサポーター」制度を立ち上げたことを契機に休止し、国、市町などが実施するポートウオッチング等の行事に会員を派遣する支援事業に衣替えしました。「みなとサポーター」は、現在個人会員の4分の1に当たる44名の方に登録いただいており、これまでの派遣実績は延べ181名に上ります。北海道の短い夏に集中する道内各地のイベントは土日の休日に行われることが多く、登録会員各位には多大なご尽力をいただいています。加えて、各地のイベントで人気があります当NPOのイメージキャラクターにぽーとんとべいくりんがあります。現在3セットの着ぐるみがあり、各地のイベントに貸し出されており、今年度は14件の利用がありました。

みなとまちづくり支援事業では「みなと座談会」を北海道みなとまちづくり女性ネットワーク（大西育子代表）の皆さんの協力を得て開催しています。平成16年の函館港を初回に、釧路、室蘭、稚内、十勝、留萌、苫小牧の各港での座談会では、女性ならではの視点で毎回熱心な議論が行われています。今年度は、初めて、紋別での開催となりました。

みなとの防災業務および災害復旧支援事業も当NPOの主要事業です。平成18年10月に北海道開発局と支援協定を結び北海道開発局防災エキスパート（港湾・空港・漁港）の研修、訓練等の事務局業務のお手伝いを行っています。防災エキスパートには現在29名の登録があります。

みなとの文化振興に係る助成事業は平成20年度から実施しています。毎年10件程度の応募があり、今年度までに65件の助成を行ってきました。平成24年度からは、夏のみなと祭りと前後して行われるボート競漕を特別枠として重点的に支援を行っています。平成21年の函館港開港150周年に協賛して行われた「函館ペリーボート競漕」、平成23年の室蘭港開港140周年協賛の「むろらん港鉄人船漕ぎ大会」はその後も継続して開催されており、みなと関係の祭りの主要行事に成長しています。

以上、平成15年の設立以降の10年間の取り組みを振り返ってみました。繰り返すまでもなくNPOは社会貢献活動を行う営利を目的としない法人です。当法人は各会員のボランティア活動により成り立っています。引き続き多くの会員の皆様のご理解とご支援とともに会員各位の参加をお待ちしています。

特　別　寄　稿

北海道みなとまちづくり
女性ネットワーク 会長
女性みなと街づくり苫小牧 代表
大　西　育　子

●女性ネットワークの誕生

女性みなと街づくり苫小牧が産声を上げたのは、苫小牧港が40周年を迎えようとしていた矢先の頃でした。光陰矢の如しとは良く言ったもので、あっという間の10年でした！

ボランティア持ち寄り会費運営の会は、幼稚園児に港の絵画をお願いしたり、苫小牧駅から区間を決めて、歩いて見て大人の目線・子供の目線など、斬新な考えや思いを話し合いながら次の活動へと繋げていきました。（みなとウオーク・みなと絵画展 etc）

●みなとまち活性化イベント助成事業

港を核とした花いっぱい活動で、初めて助成を頂き「苫小牧港西港区北埠頭緑地」に、フラワーポットを設置して5年、草取り・水やり・清掃 etc。

「花いっぱい活動」の様子

北埠頭緑地も市民公募で「キラキラ公園」と名付けられ、3ヶ年計画で花壇が開設される事になりました。世界初の堀込港湾である苫小牧港は、自然の良港である他の港と異なり、機能性&効率性は抜群ですが、地域の人々との触れ合いや、賑わい空間としては今ひとつ「物足りなさ」が感じられ、足を運んでもらうには、市民目線の工夫が必要欠かざる部分を痛感致しました！

苫小牧港湾事務所の港湾業務艇【はやぶさ】で港内を見学させて頂いた時、ショートクルーズで船上から公園を垣間見た時、色彩が不足している事に気付かされました。

フラワーポット設置の時も、潮風に強い花の種類や一年草であっても、春から秋口まで長く訪れる人々を楽しませてくれる花、花の種類を教えて頂いたり勉強したりしました。

予算の余りない我々の会は、助成事業に採択され継続事業へと漕ぎ着けられました。

●平成25年4月開港50周年

勇払原野に港を……空知や夕張の炭産地から石炭の積み出し港として、首都圏に運び出される港として、海陸交通の拠点としての整備が進められ、潮流と砂の流れに翻弄された時間との闘いと聞いております。現在は、当初とは様変わりしフェリーやコンテナ船他、殆どの我々の生活物資は、港から入って来ていると言っても過言ではありません。節目の年に全面供用となった「キラキラ公園」に、記念事業の一環として7月に海王丸が入港し、船内見学・セイルドリル etc「第3回みなとオアシス Sea 級グルメ全国大会 in 苫小牧」が同時開催されました。全国から16港21品目がエントリーし、7月13日～14日の2日間グランプリをめざし熱き闘いが展開致しました！　2日間好天にも恵まれ【第3回グランプリ】は、愛媛県八幡浜【じゃこカツ】準優勝は地元

「海は広いなコンサート」の様子

苫小牧【ホッキモー】第3位は小名浜【ジャンボカジキメンチ】でした！　14日は海と港に感謝をこめて「海は広いなコンサート」（採択事業）を全道女性ネットワーク有志で初挑戦♪指揮進行は室蘭港の立野了子さんに託しました♪

同時開催として、函館港みなとまちづくり女性ネットワーク折谷代表のご協力により【ウギャル】のライブも有り、会場は盛り上がりを見せました！翌15日は「みなと写生会」の受付も買って出て頂き、画用紙・クレヨンを手渡し……子供（幼稚園児・小学生）達だけでなく、引率の大人達もとても嬉しそうな時間を共有いたしました！

「みなと写生会」受付の様子

16日午後、海王丸は登檣礼を行い、次の港へと出港いたしました。

延べ参加人数63,000人の人々が来港、とても々暑い、熱い、厚い5日間でした！

8月2日～4日は第58回とまこまい港まつりが開催され、私達はキラキラ公園での第15回みなとフェスティバルに参加、はすかっぷボートレース、みなとパネル展、その隣のテントで「水揚げ日本一のホッキ貝」のカレーとホッキごはんを販売。

慣れない手つきで……ハスカップソーダを手作りし販売。（大分の予行練習）

ホッキカレーはごはん不足となり、購入に走った一幕もありました！

「みなとフェスティバル」の様子

8月24日～25日は大分港西大分地区【かんたん港園】において、「第4回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in OITA」に参加。北海道勢総数25名の大量参加となり、エントリーは苫小牧港「ホッキモー」でしたが、オール北海道として海産物と、ハスカップソーダの手作りを販売いたしました！　普段は取り組んだことのない……貴重な体験だった様でした！

「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」2日目には何処の店舗より大きな声で、頑張っている姿は頭の下がる光景でした。あいにく2日目は雨となりましたが、雨にも負けずの精神で最後迄やる抜く気合いは、学ぶところが多く道産子魂此処に有りでした♪

OITA：全国16港16品目エントリー、グランプリ

「第 4 回 Sea 級グルメ全国大会 in 大分」の様子

「第 4 回 Sea 級グルメ全国大会 in 大分」の様子

はみなとオアシス宇野【たまの温玉めし】でした。みなとオアシス苫小牧は、「しらしんけん美味しいで賞」でした！　暑さにめげずよくぞ頑張ったと思います！（しらしんけんとは、大分の方言で「すごーく」と言う意味）

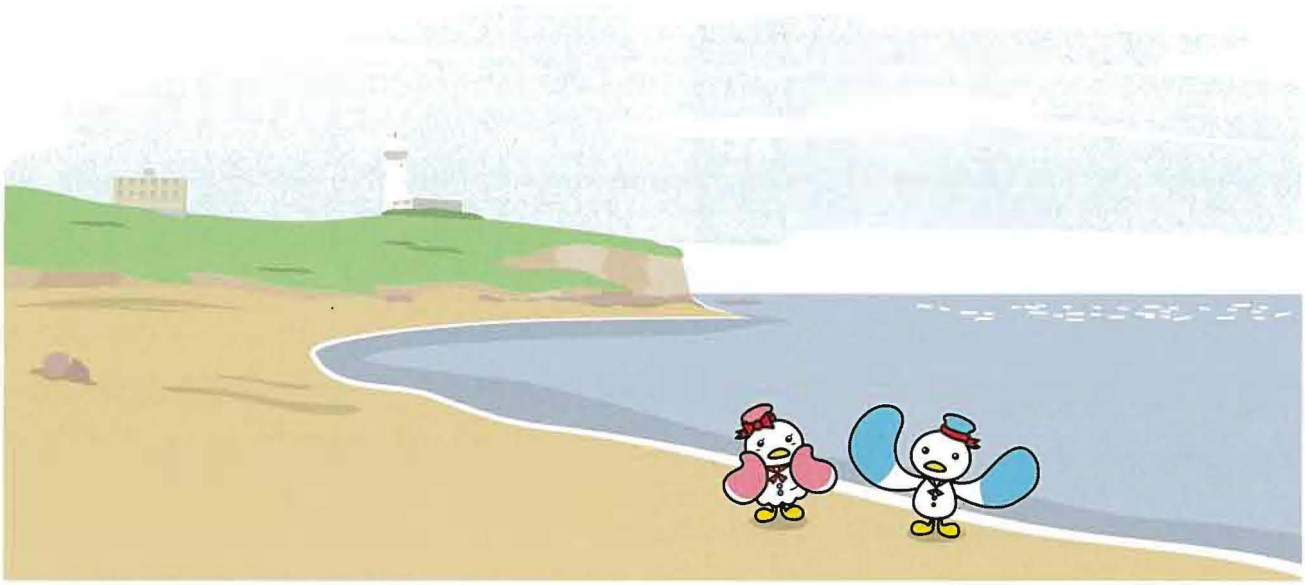
自然の良港と苫小牧港の違いを、歴史の重みをどしーんと感じる時間でした。

交易が始まり人が張り付き、港と共に暮らしが街が発展して来た、港町!!

港が造られ企業が張り付き、企業に人が張り付き、仕事場としての港の認識だけだと、無味乾燥となり色々なものが育ちづらいと思いました。

今夏の猛暑は涼を求めて、乳幼児から就学前の子供達を連れた家族連れが、「キラキラ公園」に集まって賑わい駐車場が不足、路上駐車が 100 m 以上となりました。

自然体で人々が集う「キラキラ公園」めざし、これからの 50 年を想う時、未来を担う子供達に何を伝え……何を残せるのか一人一人が真剣に考える事が大切と思います。



みなとまちづくり
女性ネットワーク函館 代表
折　谷　久美子

NPO法人北海道みなとの文化振興機構設立10周年を心からお祝い申し上げます。

私たち「みなとまちづくり女性ネットワーク函館」は、大好きな函館のまちの歴史や港にもっと関心を持ち、女性ならではの気付きを行政に伝え協働でまちづくり活動をしようと、2003年7月、「みなとまちづくり女性ネットワーク函館」を立ち上げました。

意気揚々と志を高く掲げ発足しましたが、どのような活動がみなとまちづくり活動なのか、当時はあまり理解せず、行動していたと思います。

2006年7月、「親子で行く　みなと学習見学会」を函館で初開催するので協力いただきたいと、NPO法人北海道みなとの文化振興機構からお声をかけていただきました。

親子連れなど43名が参加し、中央、万代、港町の各埠頭をバスで巡り、函館山から函館港も見学し、イカ釣り機の工場や水産加工会社も視察しました。

お昼のお弁当の手配を私たちが担当していたので、子ども達に喜んでもらいたいと、前日の夜、急遽、ぽーとん、べいくりんのイラストを書いた手作りの掛け紙を作ってお弁当の上に乗せたところ、大変喜ばれたことが、今も懐かしく思い出されます。

未熟だった私たちの会も、発足してから10年を迎えることができましたのも、NPO法人北海道みなとの文化振興機構の皆さんに、優しく温かくご指導いただき、その後も変わらずに、ご理解とご協力を賜っておりますことに、深く感謝いたしております。

函館港の活性化や、港のにぎわい創出に貢献するためには、家庭や学校、地域産業が一体となって、まちづくりの推進を図ることが重要なのだと、今までの活動をとおして感じています。

函館市の魚である「いか」を活用した、「いかめし」造り体験は、親子で喜ばれる活動の一つです。

子どもたちが進学や就職などで函館を離れた先で、いかめしを見て、その時の体験を思い出し、ふるさと函館のことや、いかのことを懐かしく語ってくれたら嬉しく思います。そのためにも、子どものころから水産物に対する興味や、知識の習得を学ぶ機会をつくることが必要と感じています。

また、本年度函館港で予定していたクルーズ船、全14隻の寄港が、9月30日の飛鳥IIで終了しました。

ラストクルーズ2013、来年もまた来ていただきたいと、おもてなしの気持ちで飛鳥IIの皆さんに「いかめし」を振る舞いました。

出航時は雨のため、イカ踊りの見送りイベントはありませんでしたが、喜んでいただいた函館のいかめしは、印象に残られたことと思います。

自分がされて嬉しいことを相手の気持ちになって行動すると、期待に応えて喜んでいただけることを過去の活動から学びました。

これからも、日々の暮らしの中で女性の視点で学んだことを若い世代へつなげ、地元の人が気軽に港へ足を運べるような楽しい活動を続けていきたいです。

結びに、NPO法人北海道みなとの文化振興機構の設立10周年を契機に、ますます貴会がご発展されますことと、会員の皆様のご多幸を心よりお祈りいたします。

2006.7.26　みなと学習会でのお弁当(緑の島)

2013.8.11　小学生対象「いかめしを造ろう」

2013.9.30　港町埠頭　飛鳥IIの見送り

みなと・まちづくり
女性ネットワークオホーツク 代表
竹　内　珠　己

10周年おめでとうございます。

北海道みなとまちづくり女性ネットワーク会員として、NPO法人北海道みなとの文化振興機構の取り組みの『地域の魅力を活かしたみなとまちづくり』をテーマに、全道から集まり参加される皆様と思いを、考えを懇談させて頂き、自分の街にどのような「みなとまちづくり」が考えられるのか、そんなかかわりの中で「みなと・まちづくり女性ネットワークオホーツク」の「㈱グローバルポートダイニング山桜桃」が誕生致しました。

街中の賑わいを取り戻し、地域の魅力確立を考え、地場の食材を提供しながら地域のふれあい空間を創出。港と商店街を結ぶ動線づくりに貢献し、観光客や市民が気軽に立ち寄り、高齢者も触れ合える寄り合い所的な場、食事処を中心商店街の空き店舗を改装し開設することができました。

価値観を共有するネットワークの仲間で、地域内外の交流や地域文化の発信などに活用しています。

NPO法人北海道みなとの文化振興機構のかかわりの中で誕生した、大切な私達のみなとまちづくりの発信基地です。多くの皆様のご助力の賜でございますが、ご利用くださる皆様の笑顔が拝見できることが会員一同大変嬉しく思っております。

NPO法人北海道みなとの文化振興機構の益々のご発展をご祈念申し上げますと共に、これからも北海道みなと・まちづくり女性ネットワークにご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、お祝いの言葉とさせて頂きます。

敬具

みなとと触れ合う催しものをまちづくりと併せながら地域の元気につながる子供「ものづくり」を楽しむ会開催。

● 3月3日　ひな祭り（無料提供　甘酒、ちらし寿司）
「未来を担う子供達に夢と希望を…」
・ひな人形はり絵ミニ色紙づくり
・ひな人形撮影会
・海上保安庁グッズのはり絵づくり

● 国際交流のお手伝い
山桜桃にてジンギスカンを希望され初めての味に「世界一美味しい!!!」と感動されておりました。

稚内のみなとを考える
女性ネットワーク 代表

岩 本 明 子

こころより、NPO法人北海道みなとの文化振興機構の設立10年を迎えましたことをよろこび申し上げます。また、貴法人からは毎年助成金によるご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

私たち「稚内のみなとを考える女性ネットワーク」も昨年10周年を迎え、貴法人とともに稚内のみなとの活性化やにぎわい創出のために歩んできたものと思い、感慨深いものを感じます。

私が同ネットワークに入会した頃は、WAKKANAIみなとコンサートが地元のイベントとして定着してきた時期で、私自身も会員のひとりとして同コンサートの準備や手伝いに精を出しておりました。同コンサート運営のためには、音響機器のレンタルや運営に掛かる最低限の費用が必要なので、現在も会員自らが一般市民の自宅や企業へ出向き、協賛金を募ることで対応しております。このため、貴法人から毎年ご支援していただいている助成金は大変貴重であり、今まで同コンサートを陰で支えていただき感謝する次第です。また同法人の方がコンサート会場でお手伝いや来訪者へのアンケートの実施などをしていただき、得られたアンケート結果は参考にさせていただいております。

同ネットワークでは、貴法人とともに、みなとコンサートなどのイベント活動をとおして、みなとの活性化に寄与していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

第3回（平成17年）WAKKANAIみなとコンサートの様子

第5回（平成19年）WAKKANAIみなとコンサートの様子

稚内港湾事務所によるみなとの広報活動

来訪者へのアンケートの様子

みなとまちづくりマイスター
みなとまちづくり
女性ネットワーク室蘭 代表
立　野　了　子

私が生まれた頃の室蘭港を思い出すと、メロディが浮かぶのが、〝かもめの水兵さん〟です、当時室蘭港には海軍の水兵さんが白い帽子、白い制服とかっこよく見え、街で声を掛け合ったり、子供心に、かもめと水兵さんが一緒のイメージだったのも楽しい思い出でした。埋め立てをする前の室蘭港は私達の遊び場でもあり、炭場など恰好の場所でした。電信浜、祝津水族館へは、蟹、やどかり、などバケツいっぱいに取り、それを帰りには、又海へ放したり思い出は海にありました。特に学校の体育の授業はハシケに乗って陣屋（今のJX日鉱日石）海水浴場で泳いだ事は忘れられない思い出です。広い広い海に向かって、大声で叫んだり、歌ったり……今考えると私の声は海によって鍛えられたのかもしれません。

自然の良港室蘭港と云われ昨年開港140年を迎えました、先人達が築いてこられた港から開かれた室蘭の歴史を振り返った時、昔から変わらない海の青さ、波のしぶき、潮の香り……等、一方湾の中の変化、埋め立て地の活用……等、時代と共に揺れ動きながら変化してまいりました。

私は家からいつも海を眺めながら育ち、「うみはひろいな大きいな、月がのぼるし、日が沈む、うみにお船を浮かばせて、行ってみたいな、よそのくに」と世界一小さな歌で世界一大きい希望のもてる歌を今でも大きい声で歌います。

皆で海の日に、海の歌を海辺で歌おうと考え20年前から「海の日コンサート」を始めました、海に囲まれた入江港公園、祝津エンルムマリーナ、祝津室蘭水族館、地球岬、追直漁港、フェリー船上コンサート……等、でした。海や港と音楽を結び市民と一緒に歌う事で市民が港に親しみを持ち、身近な存在に感じ、元気が出る事を祈りながらのハーモニーでした。

7月14日苫小牧港開港50年記念「うみは広いなコンサート」が苫小牧港キラキラ公園で開催されました。北海道みなとまちづくり女性ネットワークの仲間達が沢山の市民と共に大西会長を中心に岩倉市長、早苗夫人共々歌った〝うみ〟〝海〟〝我は海の子〟が開港50年のお祝のハーモニーを奏でました。そしてみなとオアシスSea級グルメ全国大会in苫小牧での室蘭の魚くろそい汁、室蘭タコのから揚げの味が海のメロディーと一緒に味わえたのかと満足しました。

さて、暮らしを海と世界に結ぶ〝みなとづくり女性ネットワーク〟が平成13年に設立されその後北海道みなとまちづくり女性ネットワークが設立以来「今後の港湾について」の学習、情報交換を通して室蘭の女性ネットワークも少しずつ活動してまいりました。今年は独自で海の日によせて「歴史と音楽のひととき～北前船物語」チェンバロ奏者　明楽みゆき氏によりチェンバロコンサートを室蘭八幡宮拝殿で開催致しました。この事業には北海道みなと文化振興機構の中村理事長のご理解のもと実現することが出来ました。江戸時代、北海道と大阪を日本海で繋いだ北前船をテーマにこんぶ、鰊の経済物流、文化交流など西洋音楽のバロック時代バッハと重ね合わせた歴史背景は私達に先人の偉業を通してこれから何を繋いでいくことが、町の発展、港の発展になるのかを考えさせてくれました。室蘭八幡宮から眺めた自然の良港室蘭港、内浦湾からの函館につながる海まさに噴火湾の素晴らしい景色がチェンバロの音色と共に頂いたエネルギーを今後に生かせるよう活動してまいりたいと思っております。

元事務局長
大　野　隆　由

私がNPOの事務局に加わったのは第3回（平成18年）から第5回まで、前任の田中敦幸さんから引き継ぎました。NPO立ち上げの動機は別途記される事と思いますが、設立からの2年間は取り組む事業を具体化するに当たって、いろいろな課題の解決に、時間を要し、相当ご苦労をされたことと思います。第3年目からはNPOの行う事業を更に着実に実行出来る様にすることとNPOみなとの文化機構の役割について会員の方々ばかりでなく、一般の方々にも広くご理解をしていただくために、PR活動の重要性を感じ、その進め方について種々検討を行いました。

計画に基づき、みなと座談会、親子で行くみなと学習見学会、みなとパネル展、助成活動、ネットワーク強化、機関誌「伝言板」の発行、ホームページを開設、着ぐるみ「ぽーとん」「べいくりん」の活用事業、後に港湾・空港・漁港の防災・災害に関わる活動支援「防災エキスパート制度」の発足等の事業に取り組みました。

NPOの運営は事務局長以下5名のスタッフ全員が無給のボランティアとして務めました。スタッフに大変協力して貰いました。また、NPO発足当初から連携していました北海道女性ネットワークの方々の積極的な協力、現地の関係企業、各地の開発建設部、港湾事業所や自治体の方々の理解と協力がなければ、実施出来なかったと感謝しています。その後、苫小牧、釧路、函館、札樽地区に支部を設置し、地域の各種のイベントに出来る限り参加することとしました。

実施した業務の主なものについて述べると、

「みなと座談会」

みなとまちの地域づくりについて考えるため、各地でまちづくりを実践している方々特に各地のみなとづくり女性ネットワークの方々を中心に参加していただき、毎年各地で開催しました。（室蘭市、稚内市、十勝広尾町）座談会の模様は機関誌「伝言板」に掲載し、皆様に報告しております。

「親子で行くみなと学習見学会」

みなとの役割とみなと空間のあり方を親子で考えて貰う事を目的に実施し、地域の産業を支える港と、関連する諸施設の利用状況の見学を行った。事務局長外2名が現地に行き、親子参加者の募集を初め、関係機関への協力要請をし、女性ネットワークの協力を得て、函館、小樽で開催し、子供達からすばらしい感想文を貰いました。一方、開発局の呼びかけで、各地で小学校の学習事業として、港の現地学習会が実施されるようになり、「親子で行くみなと学習見学会」は平成19年で一旦休止することにし、学習会実施時の安全管理等の支援のため、NPO支部会員を派遣する事業（みなとサポーター）に変更しました。

「助成活動」

みなとまちの活性化に各地で開催するイベント等を支援のため、経費の一部を助成する事を目的に実施、平成18年までは予算の制約から1件の申請に助成しましたが、平成19年から助成ルールを明確にし、予算も若干増額して、有識者を含む審議会を設け、各地のみなと活性化申請事業数件に少額でしたが助成をしました。

着ぐるみ「ぽーとん」「べいくりん」の活用事業

NPOが平成17年に寒地港湾研究所から譲りうけた着ぐるみを各地のみなと関連のイベント開催に合わせ、カモメ姿の着ぐるみの貸し出しを行いました。（平成19年から有料化）毎年各地のみなとの催しに出品し、子供達にも人気を博し、会場の盛り上げに一役担っています。

みなとはもともと地域の住んでいる人たちの身近な存在です。が、経済が大きくなると物流や生産の効率化のために施設の近代化が求められ、省力化等により一部の関係者以外はみなとが自分たちにどんな関わりが有るのか解りづらく、無関心となる傾向があり、みなとの重要性と自分たちの生活との関わりを再度認識していただくために、NPOはもっと新しい事業にこれからも生活者の視点で取り組んで欲しいと願っています。

元函館支部長
柏　木　　功

平成15年4月7日認証の「北海道みなとの文化振興機構」 目的は、

1．港への理解と利用促進に係わる広報活動
2．海岸・港の清掃、植樹等の美化活動
3．海洋および港に係わる教育・文化活動
4．港の国際交流に係わる活動
5．これらの情報の収集と調査研究活動

このように北海道のNPOとして動き出し、各地域もそれぞれに、会員として参加し、港への理解、文化、美化活動を開始しました。函館地方の歩みの中で平成18年4月に企画して動いた、親子でいく「みなと学習会」は函館女性ネットワークと共催、実施のイベントを回顧します。協賛者は函館市港湾部、函館開発建設部と十分協議し、バスによる親子50名の学習会が企画されました。

港の見学場所①函館港中央埠頭②函館港万代埠頭③函館港緑の島④高田屋嘉兵衛⑤アメリカ東インド艦隊司令長官アドミラル・ペリーの銅像⑥函館どつく⑦㈱東和電機製作所⑧㈱竹田食品でAM9：30～PM15：30迄約6時間に及ぶ見聞の学習会を開催しました。

説明者は、港湾施設は開発建設部、港湾事務所、民間施設はバスガイド、イカ自動吊機の説明は東和電機の浜出さん、イカの塩辛は竹田食品の村上さん、皆それぞれプロの説明でわかりやすい説明でした。当時小学生5～6年生、平成18年7月なので6年経過しております。港の施設と工場見学が、心の歩みにどう響いているのか聞いてみたいです。NPOの支援者の一人として、大変であったなとの気がしておりますが過ぎた時間と歩みがどのようになったのかの想いです。

私はその他に、函館港の快速艇による函館港内見学を約10年続けて実施し、港湾事務所の職員の皆様にいろいろお世話になり実施しており、ここにお礼の文章を紹介します。社会福祉法人　函館厚生院くるみ学園の生徒さんのものです。

夢左志（むさし）　小学6年

「こんかいは、ポートウオッチングにさんかさせていただきありがとうございました。函館港からは、いろいろなたてものが見えてきれいでした。風景もとてもきれいで、これて、よかったと思いました。ボートでは水しぶきがとんできてかおにとんできました。このポートウオッチングは、しょっぱい夏の思い出です。」

茉璃絵（まりえ）　小学６年

「この前のポートウオッチングは、ごしょうたいいただき、まことにありがとうございました。ほんとうにありがとうございました。でも私はもう６年生なので、つぎのポートウオッチングにはでられないかもしれませんけど、これからもみんなのことをよろしくお願いします。」

児童指導員　**船登　暁**

「新涼の候、蝉の声が暑さをいっそうかき立てる今日この頃、先日はポートウオッチングにご招待頂き、誠にありがとうございました。夏休み直前に、とても良い時間を過すことが出来ました。子ども達にとって、船に乗る経験はなかなか少ないこともあり、ポートウオッチングのご招待については、高学年から低学年へとその様子が語られ、初めて乗船できる子ども達は、毎年、心待ちにしている次第です。年頃になってくると、日常の中では素直な気持ちが見えづらくなってくることもありますが、船の速度が増すごとに、無邪気な子どもらしい表情が溢れ、嬉しそうに波しぶきを浴びる子ども達の姿が、非常に印象的で私自身も喜ばしい事でありました。

それも、皆様の温かい心遣いのおかげと、重ねて感謝申し上げます。礼儀やマナー等については、まだまだ至らないところも多く、乗船中はご迷惑をおかけしたことと存じますが今後とも変らぬご支援のほどをお願い申し上げ、お礼の言葉と代えさせて頂きます。」

ボランティアで実施していても、このように実際に快速艇に乗った子ども達、又担当の指導員の方からの気持を伝えて頂くと心が暖まり、歩みと共に流れてゆく、心の清清しさは又来年もやるぞの気持になります。

NPO の活動として、言葉で表現すると、少し固苦しくなりますが、「行動」すること、「継続」することと心の伝達を行っていきたい。

これからも、少しでも「社会に貢献できる活動に参加する」　この気を心にきざみ、歩み続けていきたいと思います。

平成25年度「支部長等会議」開催

NPO法人北海道みなとの文化振興機構事務局の支部長会議は、平成25年6月6日(木)セントラル札幌北ビル(一社)寒地港湾技術研究センター会議室において開催されました。

支部長等会議は札幌の事務局と各支部の連絡を密とし業務の実施を円滑にすることを主な目的として開催しております。

会議は、釧路、函館、苫小牧、札樽の4支部の支部長並びに支部次長と札幌の事務局の出席により行われました。

開催にあたり中村理事長からの挨拶のあと議事に入りました。

議事の項目と主な項目の概要は次の通です。

1．事務局・各支部体制について、室蘭支部の新設
2．事務局主要業務内容と行事日程について
3．みなとサポート業務支援実施計画、みなとサポート事業支援実績及びサポーター登録者の支援活動状況
4．港湾キャラクター（着ぐるみ貸し付け事業）の貸し付け状況及び、使用計画
5．NPOオリジナルグッズの配布先状況と購入予定
6．助成事業の応募要領・実施要領・応募状況
7．防災エキスパート登録状況、連絡体制
8．業務執行に係わるみなとサポーター要員の保険加入、及び旅費の支給規定取り扱い

以上の議事について検討外、実施状況等の報告があり有意義な意見交換がされ、会議は終了いたしました。

平成 25 年度「みなとサポート事業」
各支部の支援活動

この業務は、開発建設部が開催する「みなと見学会」、「みなとパネル展」、「アンケート調査」などの実施について、NPO に支援要望があったものから支援可能なものを選択し、NPO 会員の〝みなとサポーター〟が支援するもので、平成 20 年度から行っています。

今年度は、函館、室蘭、小樽、帯広、稚内の開発建設部が開催する「みなと見学会」「みなとパネル展」等を、6 月の「石狩湾新港みなと見学会」を皮切りに 8 港湾で実施しました。

実施港は、函館港（8 日間）、室蘭港（1 日）、苫小牧港（3 日間）、石狩湾新港（3 日間）、岩内港（1 日）、小樽港（1 日）、十勝港（2 日間）、稚内港（1 日）で、日数は 20 日間、人員は 23 人（延べ人数 35 人）です。

以下、その概要を紹介します。

札樽支部

① 石狩湾新港みなと見学会

実施日　6 月 18 日、19 日、20 日

石狩市内の小学校の児童（3～5 年生）約 390 名を対象に、港湾業務艇「ひまわり（総トン数 19 トン）に乗船し、約 30 分港内を巡りながら港の様子を見学（午前中で 4 航海）。

サポーター（2 人/日）は、乗降船時の誘導・警備、救命胴衣の着脱を支援しました。

② 岩内港みなと見学会

実施日　7 月 2 日

岩内町内の小学校の 3、4 年生の児童約 60 名を対象に、港湾業務艇「ひまわり」に乗船し、約 20 分港内を巡り港の役割などについて見学。

サポーター（2 人/日）は、乗降船時の誘導・警備、救命胴衣の着脱を支援しました。

③ 小樽港みなと見学会

実施日　7 月 14 日

「海の月間」関連事業の一環として開催される「マリン・フェスタ in 小樽」で、一般市民を対象に、港湾業務艇「ひまわり」に乗船し、港内を巡りながら港の様子を見学。5 航海を実施。

サポーター（4 人）は、乗降船時の誘導・警備、救命胴衣の着脱、及び記念グッズの配布をしました。

室蘭支部

① 海の日パネル展

実施日　7月15日

白鳥大橋記念館「みたら」で、みなとの歴史と役割のパネルを展示。

サポーター3名は来場者に記念グッズを配布。同時に港湾業務艇「みさご」による「港内見学会」も行われ、参加した市民に記念グッズを配布しました。

苫小牧支部

① 苫小牧港「みなとパネル展」

実施日　7月5日、6日、7日

「イオンモール苫小牧」においてパネル展が開催され、サポーター（2名/日）訪れた市民にアンケートの配布・収集、警備、及び記念グッズの配布を行いました。

函館支部

① 函館港みなと見学会

実施日　7月9日、20日、21日、23日、8月10日

市内の小・中学校生、一般市民を対象に、港湾業務艇「みずなぎ（総トン数19トン）」に乗船し、港内を約40分間見学。

サポーター（1～3名/日）は、見学者の救命胴衣の着脱、乗降船時の誘導・警備を支援。また、記念グッズの配布をしました。

② 函館みなとパネル展

実施日　7月13日、14日、15日

函館市地域交流まちづくりセンターで3日間、一般市民を対象に函館港の歴史や役割を説明したパネル展示をしました。

サポーター（1～2名/日）は、来場者にアンケートを配布・収集、記念グッズの配布、展示品の説明、警備等の支援をしました。

釧路支部

① 十勝港見学会

実施日　8月7日

広尾町内のつつじ児童会1～3年生28名を対象に、児童会の施設で十勝港の施設のビデオ上映や、バスで移動し港の施設を見学しました。

サポーター（1人）は、児童の移動中の保安を支援しました。

② 十勝港みなと見学会

実施日　8月23日

広尾小学校の5年生の児童約50名を対象に、港の役割や歴史の説明を受けたのちに、港湾業務艇「ふよう」に乗船し、約30分港内を巡り見学しました。

サポーター（2人）は、乗降船の誘導・警備・救命胴衣の着脱を支援しました。

事務局

① 2013 Wakkanai みなとコンサート

実施日　8月25日

稚内港北防波堤ドームで開催された、「稚内のみなとを考える女性ネットワーク」主催の「WAKKANAI みなとのコンサート 2013」の来場者、及び、同時に開催された「食のマルシェ」の来場者を対象に、港に関するアンケートを配布・収集。

北海道開発局防災エキスパート（港湾・空港・漁港）平成25年度研修会の開催について

平成25年度北海道防災エキスパート（港湾・空港・漁港）研修は、9月3日(火)午後3時から北海道開発局庁舎で開催しました。研修会開始の前に新規登録者認定式が行われ、3名の方が港湾空港部長から登録通知証の交付を受けました。今年度は2名の方より登録の取り消し希望があり、エキスパート登録者は29名となりました。

研修会は、北海道開発局港湾空港部港湾建設課長の主催者挨拶から始まり、港湾建設課第1係長から「防災エキスパートの役割について」と題して、北海道が置かれている地震等災害発生の現状、防災エキスパートの重要性及び制度、他整備局の防災エキスパート活動実績等の説明を受けました。

後半は、「円滑な防災エキスパート活動に資する訓練の在り方」をテーマに討論に入り、制度要綱に基づく適切な体制作りの確保。参集訓練を教訓に今後の訓練の在り方の検討。活動実績のある東北エキスパートの取り組み状況を取入れた活動フロー等の作成。エキスパート出動要請側の支援内容の把握。エキスパートカルテの充実と適切な人材配置。出動要請側職員とのコミュニケーショ構築の重要性等の意見がありました。最後に事務局から、現時点でエキスパート活動が無い状況下で、諸問題の把握、その問題の解消等体制強化を整えるため、今年度小規模災害への活動派遣（試行）について提案があり、ホランティア保険内容の確認、エキスパート企業への周知等問題提起はありましたが、賛成を得られ研修会を終了しました。

平成25年度助成事業の実施概要

NPO法人北海道みなとの文化振興機構では、道内のみなとまちの活性化をめざし企画・実施されるイベント等、様々な事業を支援し、「みなとまち活性化」に寄与することを目的とした助成事業を平成20年度から始めました。

平成25年度は、開発建設部の「みなとの相談窓口」等を通じて推薦をいただくと共に、当NPO法人のホームページで3月下旬より募集要領を公表しました。4月上旬から5月上旬にかけ公募し、17団体で18件の申請がありました。

採択事業を決定するため、5月24日「評価審査委員会」を札幌市で開催しました。委員は学識経験者2名と当法人の理事長、事務局長の4名で、各団体から提出された申請活動に関する応募資料について審査を行いました。

審査の選考基準は、事業の目的が「みなとまちの活性化への効果が期待できる事業」とし、①みなとへの理解と利用促進に係る広報・体験学習活動　②海岸・みなとの清掃、植樹等の美化活動　③海洋及びみなとに係る教育、文化活動であること、地域住民との連携と広がりの程度、また、過去の開催実績等も合わせて審査を行いました。

審査委員会は、申請のあった18件の審査を行った結果14件の事業を採択しました。

採択結果は、5月21日に各団体へ文書により通知しました。なお、助成金額は50千円、100千円、150千円の区分で配分しました。

採択した活動名や団体名並びに開催日は以下のとおりです。

活動名	団体名	開催日時
第7回漁業体験教室（港の魚でタッチプール体験）	小樽築港ベイエリア委員会	9月15日
海の日によせて「歴史と音楽のひととき～北前船物語」	北海道みなとまちづくり女性ネットワーク室蘭	7月16日
第3回みなとオアシスSea級グルメ全国大会　1万人コンサート	女性みなとまちづくり苫小牧	7月14日
WAKKANAIみなとのコンサート2013	稚内のみなとを考える女性ネットワーク	8月25日
地域グルメを生かしたみなとオアシス「わっかない」のPR～第3回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in苫小牧への参加	みなとオアシス「わっかない」	7月14日
浦河港地方港湾指定60周年記念事業	浦河港湾管理者　浦河町	8月24日
くしろクルーズ船おもてなしプロジェクト	釧路港おもてなし倶楽部	6月16日 7月16日 8月30日 9月7日 10月24日
オホーツクタワーから煌めきの発信	みなとまちづくり女性ネットワークオホーツク	11月30日 又は2月1日
第3回みなとオアシスSea級グルメ全国大会での函館の水産物（いか・昆布）のPR	みなとまちづくり女性ネットワーク函館	7月14日
むろらん港鉄人船漕ぎ大会	むろらん港船漕ぎ大会実行委員会	7月14日
みなと南極まつり稚内副港ボートレース2013	稚内副港ボートレース実行委員会	8月4日
苫小牧港はすかっぷボートレース	苫小牧港はすかっぷボートレース実行委員会	8月3日
函館港まつり協賛　東北支援 函館ペリーボート競漕	函館市港まつり 函館ペリーボート競漕実行委員会	8月4日
釧路港船漕ぎ大会	釧路港船漕ぎ大会実行委員会	8月3日

着ぐるみ（みなとのマスコット「ぽーとん」くん、「べいくりん」ちゃん）貸し付け事業の紹介

北海道のみなとのキャラクター「ぽーとん」くん、「べいくりん」ちゃんの着ぐるみは、みなとが担う役割を多くの皆様にご理解頂くとともに海やみなとに集う皆様が楽しく過ごして頂くお手伝いをキャラクターとして製作されました。

平成11年1号製作、好評を得たことから平成12年2号製作、平成17年3号を製作し現在3組を有し皆様にご利用頂いています。

海の上を自由に謳歌する「かもめ」を題材に「小さな赤ちゃんかもめ」をイメージしたとても愛くるしい着ぐるみです。

「ぽーとん」くん、「べいくりん」ちゃんはNPO法人北海道みなとの文化振興機構が商標登録を行っています。

着ぐるみは、平成18年度まで無料貸し付け事業を実施していましたが、製作後年数を経るとともに色あせ、破損等による維持補修費がかさむことから平成19年度から有料とさせて頂いています。

平成25年度の貸付状況は、大型旅客船寄港の歓迎式典やみなとパネル展、更に苫小牧西港地区を会場に開催された第3回みなとオアシスSea級グルメ全国大会等で利用頂きました。

利用頂いたイベント等は、次の14件（1件11月利用予定）です。

① 石狩湾新みなと見学会
② 根室みなとまつりパネル展
③ 釧路みなとパネル展
④ 釧路港サン・プリンス歓迎セレモニー
⑤ 苫小牧港みなとパネル展
⑥ 第3回みなとオアシスSea級グルメ全国大会
⑦ 苫小牧港フェステバル
⑧ 白老港まつり
⑨ 苫小牧港開港50周年記念事業
⑩ 岩内港みなと見学会
⑪ マリンフェスタin小樽
⑫ 稚内港飛鳥II歓迎セレモニー
⑬ 2013 WAKKANAIみなとコンサート
⑭ 北海道海洋深層水フェア（11月予定）

着ぐるみキャラクターは、イベントに参加した皆様と握手や写真撮影など賑わいを醸し出しました。

なお、当NPO法人は、平成26年度も貸し付け事業を実施いたしますので、ご希望の方は、ご連絡ください。

ただし、夏の期間は、イベントが集中する時期でもあってご希望にそえない場合もありますのでご理解願います。

記念グッズの配布

NPO 法人の記念グッズは、
・みなとサポート業務実施箇所
・助成事業活動箇所
・みなとサポーター実施箇所
等で配布要望の有った 13 カ所にノート（A-5 版、A-6 版）約 4,200 冊、ボールペン&マーカー約 4,300 本に加え着ぐるみシール、ふうせんを配布しました。

グッズを受け取って皆様には大変な好評でした。

「第 3 回みなとオアシス Sea 級グルメ全国大会」が苫小牧港で開催されました!!

北海道開発局港湾空港部港湾計画課

今年開港 50 周年を迎えた苫小牧港では、年間を通して数多くの記念行事が行われています。それら一連の行事のメーンイベントである「第 3 回みなとオアシス Sea 級グルメ全国大会」が 7 月 13 日（土）、14 日（日）に苫小牧港西港区キラキラ公園にて開催されました。

Sea 級グルメとは、みなとオアシスがある〝みなと〟で捕れたお魚などの海産物を用いて作られ、「ぜひ多くの人に味わって欲しい」と自信を持ってお勧めできる Sea（海）の要素を含むグルメです。そして、Sea 級グルメ大会は、全国各地の Sea 級グルメが集まる「みなとの祭典」です。

Sea 級グルメ大会に先立つ 12 日（金）、世界最大規模の帆船「海王丸」が苫小牧港に入港しました。入港時には約 1,500 人の市民が集まり、15 年ぶりの寄港を迎えました。海王丸は 16 日までの期間、キラキラ公園に係留し、「セイドリル」や「船内見学」を行うなど、訪れた人々をその優雅さで魅了しました。

同じく 12 日には、Sea 級グルメ大会に全国からかけつけたみなとオアシス関係者やみなとまちづくり関係者らによる「みなとまちづくり研究会」が（一社）ウォーターフロント開発協会と北海道みなとオアシス活性化協議会（「北海道みなとオアシス」の各運営協議会、NPO 法人北海道みなとの文化振興機構、（一社）寒地港湾技術研究センター、北海道開発局）の共催により開催されました。

研究会では、林美香子慶応大学大学院特任教授を講師に迎え、「港とまちづくり」と題した基調講演をいただくとともに、約 130 名の参加者と港のにぎわ

い創出などについて活発な意見交換が行われました。

そして、北海道で初めて開催された「第3回みなとオアシスSea級グルメ全国大会」には、全国から15のみなとオアシスが集まり、それぞれのオアシス自慢のSea級グルメを出店し、完売が相次ぐほどの大盛況となりました。2日間で約5万人の人々が会場に訪れ、来場者による人気投票の結果、「みなとオアシス八幡浜みなっと」の「じゃこカツ」が優勝、2日間で2,200人分を完売した地元「みなとオアシス苫小牧」の「ホッキモー」は惜しくも準優勝となりました。

また、会場内では、北海道のみなとの役割などを紹介する「北海道みなとパネル展」を開催し、北海道のみなとの役割やSea級グルメ大会に参加した全国のみなとオアシスを紹介するパネルを展示するとともに、アンケートやクイズラリーも実施しました。

パネル展ブースには2日間で約1,500人の方が訪れ、多くの方々に北海道のみなとやみなとオアシスについてPRすることができました。

平成25年8月時点で、全国には72港（北海道は7港）の〝みなと〟が「みなとオアシス」に登録されており、年々登録数も増加しています。

今後も「みなとオアシスSea級グルメ」などのイベントを通じて、全国の〝みなと〟を中心としたまちづくりが益々盛り上がっていくことが期待されます。

【パネル展の様子】

上：【グルメ大会の様子】
下：【キラキラ公園と帆船「海王丸」】

■会員動向

このたび竹内珠巳会員と立野了子会員が「みなとまちづくり」功労者として国土交通省港湾局長表彰を受賞し、同時に、一般社団法人ウオーターフロント協会から「みなとまちづくりマイスター」の認定を受けました。「みなとまちづくりマイスター」はみなとまちづくりにおいて他の模範となる活動を行っており、後進の指導育成が期待できる者が認定される制度であり過去に大西育子会員（北海道みなとまちづくり女性ネットワーク代表、女性みなと街づくり苫小牧代表）、折谷久美子会員（みなとまちづくり女性ネットワーク函館代表）が認定されています。

竹内さんは、みなと・まちづくり女性ネットワークオホーツクの代表として港の花一杯運動、海産物などの地場食材を使った食事処「山桜桃」を開設するなど港をテーマにまちづくりに取り組んできました。また、立野さん（みなとまちづくり女性ネットワーク室蘭代表）は声楽家として海の日コンサートを毎年海の日に行っており、これらの功績が今回認められました。

北海道女性ネットワークの皆さんとは「みなと座談会」の開催をはじめ各港の活性化について協働しており、今回の受賞、認定を改めてお祝い申し上げます。

前列：左から３人目　立野会員
左から４人目　竹内会員

お願い

当機構事務局へのご連絡は、下記のいずれかでお願いします。

Tel：011-727-3710　Fax：011-727-3710　E-mail：bunka-npo@kanchi.or.jp

なお、事務局は、常駐体制でないことから、ご返事を差し上げるまで一週間程お時間をいただくこともございますので、何卒ご了承をお願いします。

また、当機構の活動状況は、ホームページでご覧になることができます。

http://www.minatobunka-npo.info/

特定非営利活動法人
北海道みなとの文化振興機構